



ASAHI University News Letter

vol.132

March 2021

発行日／隔月1日
編集・発行／朝日大学 総務部



朝日大学HP

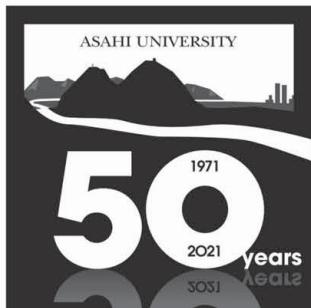
朝日大学は創立50周年を迎えました

私たちは常に未来からの挑戦を受けている



前身である岐阜歯科大学の開学式(1971年)

朝日大学は創立50周年を迎えました



1971年、私たちは岐阜県穗積の地に、岐阜歯科大学として産声を上げました。1985年に経営学部を増設し、校名を朝日大学として歩み始めました。歯科医師であり、また実業家でもあった本大学の創立者・宮田慶三郎先生は、知的な人間、和を重んじ、社会性に富んだ心豊かな人間の育成を、大学の建学の精神に定めました。

新型コロナウイルス感染症という歴史的災厄を前にして、私たちはどう行動すべきか。ある歴史学者は、より良い世界を創造するために、Compassion（思いやり）、Generosity（寛容さ）、Wisdom（知恵）が必要であると語っています。この3つの要素は、コロナと闘うわれわれ医療者にも強く求められています。

「私たちは常に未来からの挑戦を受けている」

創立者が遺したこのメッセージは、今もなお色褪せることはありません。朝日大学は、毎年、卒業生に対して次のような言葉を贈っています。「人間は、心豊かに学際的、国際的な生涯学習と研究活動をすることが望ましい。たとえ、どのような専門分野にあろうとも」。

創立50周年を迎えるこれまで支えてくださった皆様、すべての卒業生、在学生、教職員、協力企業・団体、そして地域社会に感謝するとともに、新たな一歩を踏み出すべく教育、研究、そして医療に真摯に取り組んでまいります。

2021年1月 理事長 宮田 淳
学 長 大友 克之

思い出の写真を募集中

『新たな歴史を刻む』

50周年事業において記念誌など作成のため、在学生、卒業生、ご家族、地域の方々、教職員の皆様からの朝日大学に関連した思い出の写真を募集しています。

お手元に「思い出の写真」がありましたら、ぜひご協力ください。

1 素材・規格

- (1) プリント写真、デジタル画像のどちらでも可です。
- (2) サイズ指定はありません。

※撮影日時や撮影写真にまつわるエピソードについても併せてお寄せください。
なお、ネガフィルムでの応募はご遠慮ください。

2 留意事項

- (1) ご応募いただいた写真については、全てを利用するとは限りません。
- (2) 極端な補正、合成などの加工は不可とします。
- (3) 被写体に人物が入っている場合は応募者の責任において、必ずご本人（被写体）の承諾を得た上でご応募ください。万一、写真の不正使用による権利侵害などの問題が起きた場合、大学は一切の責任を負いかねます。

- (4) 応募いただいた写真は50周年事業に関わる業務以外では一切使用いたしません。
- (5) 提出されたプリント写真などについては、総務課にて保管します。

3 送付・お問合せ先

朝日大学総務課 TEL : 058-329-1022
E-mail : soumu@alice.asahi-u.ac.jp



岐阜歯科大学時代に行われた創立10周年記念式典の様子

「建学の精神」に基づき「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざす

2021年度事業計画決まる

2021年度の事業計画が、本年1月の理事会で決定されました。

今年度も建学の精神「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成」に基づき、次世代を担う若者の夢の実現に向け、教育の質の向上をはかり、社会の多様な変化に対応できる有為な人材の育成に全力で取り組んでまいります。

主な事業計画の基本方針は次のとおりです。



2021年度の事業計画の基本方針を述べる宮田理事長

1 優秀な学生の受入れ

- ・全学部全学科における入学定員の継続的な充足
- ・効果的な広報活動(SNSの活用、オープンキャンパスの充実、海外学生派遣機関との連携強化等)
- ・高大接続改革実行プランに基づく入学者選抜方法の充実
- ・高等学校と連携した入学予定者への入学前教育の実施

2 教育・研究活動の質の保証と向上

- ・教学マネジメントによる教育の質の保証と向上に資する活動
- ・初年次教育(建学の精神と社会生活、情報リテラシー等)の実施
- ・人権教育及び人権擁護の推進
- ・教養教育の授業内容・方法等の改善及び充実
- ・地方教育懇談会の実施
- ・大学情報の発信(WEBサイトの充実、研究成果の公表等)
- ・IR推進本部による入試、学生、教学等に関する情報収集・分析の実施及び公表並びに教育活動改善への活用
- ・研究活動の推進(学内奨励金による支援及び外部資金獲得支援)
- ・自己点検・評価の実施
- ・他大学等との協定に基づく活動(学生・教職員の交流等)の実施

3 地域社会、ステークホルダー等への貢献

- ・地域貢献(高等学校、産業界等との連携、知的財産の還元)
- ・教育後援会・同窓会との連携強化
- ・三医療機関による社会貢献(地域住民の健康の維持増進に寄与)

4 国際化ビジョンに基づくグローバル化の推進

- ・学生の国際化の推進(海外提携大学との相互交流の実施等)
- ・教職員の国際化の推進(海外留学支援、積極的な海外派遣等)
- ・地域の国際化への貢献(地元の国際交流イベントへの参加促進)

5 学生支援対策

- ・学修・課外活動支援(奨学金の給付、海外研修の実施等)
- ・学生生活支援(三医療機関の診療費補助、食堂の充実等)
- ・就職支援(支援事業の推進、AGOにおける就職支援等)
- ・留学生支援(学費の減免、住居支援、就職支援等)

6 社会人の学び直し支援

- ・社会人の学び直し支援講座(英会話プログラム、医療経営士養成講座、市民講座「エクステンション・カレッジ」等)の開講
- ・歯科医師に対する生涯教育の推進

7 施設・設備の充実

- ・医科歯科医療センター大規模改修工事の実施
- ・教育充実のための設備の整備
- ・教職課程センターの施設設備の整備
- ・体育会の施設・設備の充実及び計画的な改修工事の実施
- ・三医療機関の計画的な設備の整備
- ・建物等施設設備の計画的な改修工事の実施

8 法人運営の基盤強化

- ・長期収支とバランスを考慮した事業計画遂行のための予算編成
- ・教育活動収支が均衡した安定的な経営
- ・安全性・確実性を考慮した資産運用の実施
- ・三医療機関における地域医療の充実を図るための安定的な経営
- ・科学研究費助成事業、受託研究費等の外部資金獲得の推進
- ・計画的なSD等による職員の育成、SDGsを実行する人材の育成
- ・創立50周年記念事業

新役職者決まる

2021年度の新役職者が選任されました。

大友克之学長、森下伊三男副学長、倉知正和副学長、田村康夫副学長を中心とした執行部体制により、魅力ある大学づくり、選ばれる大学づくりを目指します。

新役職者

情報教育研究センター長	矢守 恭子
図書館長	大野 正博
法学部長、法学研究科長	杉島 正秋
副法学部長	平田 勇人
法制研究所長	坂元 弘一
IR推進本部長	江尻 貞一

朝日大学体育会吹奏楽部 第1回定期演奏会開催

美しい音色で、聴衆を魅了

12月27日、体育会吹奏楽部はOKBふれあい会館サラマンカホール（岐阜市薮田南）において、新型コロナウイルス感染症対策を講じて第1回定期演奏会を開催しました。

演奏会は「セレモニアル・ファンファーレ」の力強い演奏で始まりました。続いて「Some Skunk Funk」「もののけ姫（セレクション）」「管弦楽組曲＜第六の幸福をもたらす宿＞より」などの楽曲がトランペットやクラリネット、フルートなどの多彩な楽器で演奏されると、会場からは大きな拍手が沸き起きました。

今回の演奏会への思いを和田隆明監督は、「新型コロナウイルス感染症拡大によって、大会や演奏会がなくなり、部員たちは明確な目標を立てることが難しくなりまし



た。しかし、毎日練習に励み、こうした大きな会場で演奏できる機会を頂けたことに感謝いたします」と。また部員の栗田ねねさん（経営2年）は、「大変な時期ではあります、開催できたことを嬉しく思っております。」と語りました。

吹奏楽部は、朝日大学の13番目の強化指定クラブとして2019年4月に創部され、6名の部員で活動を始めましたが、これまでに第52回岐阜県アンサンブルコンテスト金賞（岐阜県代表）、東海大会では銀賞を受賞、第131回ローズパレード2020 Japan Honor Green Bandのメンバーとして参加するなど国際的にも実績を積み上げてきました。

現在は、総勢22名の部員が、朝日大学吹奏楽部ならではの演奏を目指して、日々練習に励んでいます。



勝野友葵さん（経営2年）による迫力あるサックス演奏



山口優奈さん（法2年、吹奏楽部主将）による力強いトランペット演奏



監督 和田 隆明

岐阜県立岐阜商業高等学校教諭として同校吹奏楽部を26年間（1987～2006年、2013～2018年）指導。2019年4月、朝日大学体育会吹奏楽部の監督に就任。



岐阜新聞大賞受賞

最前線で地域医療に尽くす

令和2年度「第71回岐阜新聞大賞」に大橋宏重理事、評議員が選ばされました。

この賞は、岐阜新聞社が県内の学術、教育、文化、産業など各分野の発展に大きく貢献した個人、企業、団体をたたえ、受賞者に美濃和紙の表彰状とクリスマルトロフィーを贈呈するものです。

大橋理事、評議員は、岐阜における腎臓透析の質的向上に尽くし、歯学部教授として、医科歯科連携教育に注力するとともに、朝日大学歯学部附属村上記念病院（現：朝日大学病院）病院長として、地域医療に多大な貢献を果たした功績が高く評価され、今回の受賞にいたりました。



学校法人朝日大学理事、評議員
朝日大学病院 前病院長 大橋 宏重

おおはし・ひろしげ／1945年生まれ。岐阜大学医学部卒業、同大大学院修了。同大学付属病院講師を経て、84年岐阜県立岐阜病院腎臓科、人工透析部長、2006年副病院長。07年岐阜県総合医療センター副院長、腎臓内科部長、人工透析部長、救急救命センター長。11年より朝日大学歯学部附属村上記念病院（現：朝日大学病院）に入職し、歯学部教授、腎臓内科部長。20年3月まで病院長を務めた。この間、全国の医師が推薦する「ベストドクターズ」に選出。2014年には全国で初めて発足した岐阜県医師会山岳JMAT（医療救護チーム）の初代隊長に任命。現在も、腎臓内科教授として腎疾患を中心とした分野を担当し、医療の最前線に立ち、診療を行っている。

研究成果が高く評価される

優秀発表賞を受賞

9月16日～10月6日に開催された、第31回日本臨床口腔病理学会・学術大会（オンライン開催）で、大学院歯学研究科（口腔病理学専攻、指導：永山元彦教授）1年の宮本侑果さんが「上顎に発生したエナメル上皮癌の1例」の症例報告を行い、口腔病理学の発展に寄与する優秀な発表であるとの評価を受けて、優秀発表賞を受賞しました。

2020年から歯科医師としての道を歩み始めた社会人大学院生の宮本さんは、臨床研修医の時間の合間に、研究に取り組んでいます。発表では、症例におけるp16癌抑制遺伝子変異と悪性化の関係や、BRAF遺伝子産物とターゲット治療への可能性についても探りました。



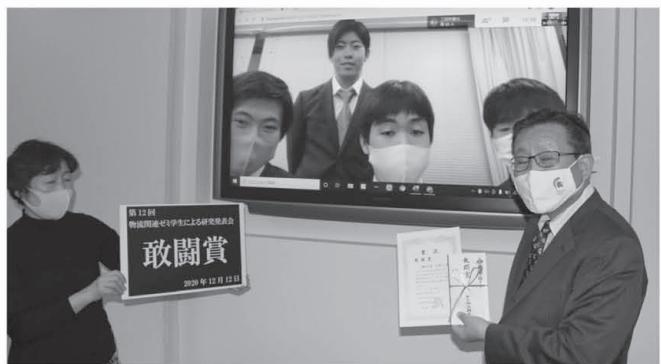
受賞した宮本侑果さん



敢闘賞を受賞

12月12日、第12回物流関連ゼミ学生による研究発表会（主催：NS物流研究会）で、経営学部経営学科土井義夫教授の研究室ゼミ生が発表した「トラック事業におけるコンビニ駐車場を活用した定時性の確保」についての研究が、物流業界の発展に寄与する内容であるとの評価を受けて、敢闘賞を受賞しました。

研究では、大型トラックが駐車可能な岐阜県、三重県、愛知県にあるコンビニ3社のデータを収集し、トラックが駐車するのに最適な立地にあるコンビニを抽出したほか、大型トラックが駐車可能なコンビニを可視化し、どのタイミングで休憩を取りるのが最適かを検証しました。



オンラインで行われた表彰式の様子（画面内は、土井ゼミの学生）

コロナ禍における新しい国際交流のカタチ

世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症により、海外からの学生の受入れや海外への派遣が難しくなりました。このような状況下でも、国際交流の機会を設けようと、Web会議サービスを活用した海外協定校との交流を行っています。

北京大学看護学院とオンライン会議を開催

9月から保健医療学部看護学科は、北京大学看護学院との共同研究実施に向けたオンライン会議を始めました。

会議には、本学からは須賀京子看護学科長、岡村絹代教授などの看護学科教員、竹島伸生健康スポーツ科学科長、共同研究のテーマに精通した歯学部総合医科学講座外科学分野（朝日大学病院）前田昌俊講師、北京大学看護学院からは、Shang Shaomei院長、北京大学口腔医学院看護部からLi Xiue主任、Wang Chunli副主任と北京大学看護学院大学院博士課程のHan Luさんの他、数名の大学院生が参加しました。

1月までに3回のオンライン会議を実施しており、今後も双方が情報を提供しあい、発展的に共同研究を進めていきます。



北京大学とのオンライン会議の様子



テキサス大学サンアントニオ校ヘルスサイエンスセンター看護学部主催のウェビナーに参加

12月12日、保健医療学部看護学科はテキサス大学サンアントニオ校ヘルスサイエンスセンター看護学部が主催するウェビナー（インターネット上で行なわれるセミナー）に参加しました。

ウェビナーには、本学保健医療学部看護学科教員、看護学科3年生7名の他、コロンビア、タイ、韓国から50名以上の教員及び学生が参加しました。

今回、「新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響とその対応」をテーマに、新型コロナウイルス感染症が引き起こした諸問題、対応策の事例について意見交換を行いました。今後も継続的に参加を予定しています。



参加した看護学科の学生



テキサス大学サンアントニオ校 M. Danet Lapiz Bluhm准教授による挨拶

地域医療連携研修会を開催

朝日大学病院では、地域医療を支える病院の役割の一つである地域の医療従事者の資質向上を図る研修として、開放型病床登録医及び連携医に向けた地域医療連携研修会を開催しています。

第39回研修会では、岐阜大学大学院医学系研究科 病態制御学講座循環病態学分野 大倉 宏之教授を座長に迎え、朝日大学病院で頭頸部外科・耳鼻咽喉科を担当する松塚崇教授が「頭頸部外科・耳鼻咽喉科で入院する疾患」について、脳神経内科大倉睦美教授が「睡眠医療について」をテーマに講演を行いました。

研修会には、登録医及び連携医18名・病院職員25名が参加し、熱心に耳を傾けていました。



研修会の様子

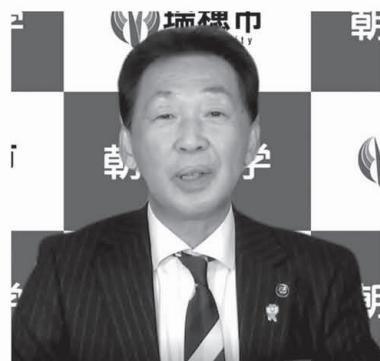
人生の指標を見つける

本学では、自己キャリア形成のための「建学の精神と社会生活」(1年生対象)をコロナ禍の中、対面講義ではなく、オンライン方式の講義により行っています。

成功の基準は「社会性」である

第12回は、森和之瑞穂市長をお招きして「2040年を見据えた課題と展望」について、ご講演いただきました。

森市長は、「2040年にどんな仕事をして生活をしているのか想像してください。自分の目標(夢)を達成するために、努力したかが結果に繋がります。皆さんに期待しています。」と語り、これまでの瑞穂市のあゆみと魅力、これから予定している市の再開発計画について紹介しました。また、深刻化する新型コロナウイルス感染症に対して、同市が取り組んでいるコロナ対策事業について説明しました。



若者に期待を寄せる
森和之瑞穂市長

なぜ、私たちはSDGsに取り組むのか

第15回は、サンメッセ総合研究所田中信康代表をお招きして「ニューノーマルを見据えた変革：SDGsと共に考える Value Creation(価値創造)」について、ご講演いただきました。

田中氏は、「SDGsは創りたい未来の集合体です。他人ごととせずに“自分ごと化”を意識して、未来を変えるアクションを起こしましょう。未来の社会を決めるのは私たちです。」と語り、昨今の環境問題や社会課題を例に挙げ、なぜSDGsに取り組むべきなのかを解説しました。また、Withコロナ社会情勢と持続可能な社会形成について説明しました。



未来を変える
SDGsについて解説する
田中信康代表

お悔やみ申し上げます

元本学学長の船越正也先生ご逝去

1989年から4期12年間、本学の学長を務めた、船越正也先生がご逝去されました。91歳でした。

船越先生は、岐阜歯科大学、朝日大学歯学部において生理学、口腔生理学の教育に携わり、歯学部教授、歯学部長、副学長を務め、1991年岐阜県私学教育功労賞を受賞、2005年秋には瑞宝中綬章(教育研究功労)を受章しました。

また、世界で初めて「咀嚼行動の記憶機能賦活作用」を発見し、その後このメカニズムとして脳内の化学伝達物質(コレチストキニン、線維芽細胞成長因子などの記憶物質)の関与を報告するなど、歯科基礎医学の発展及び臨床医学への応用に貢献されました。

船越先生は、2020年8月8日付で「従四位」に叙されました。



船越正也先生

元歯学部附属村上記念病院病院長の井田和徳先生ご逝去

歯学部附属村上記念病院(現:朝日大学病院)病院長、総合健診センター長を務めた、井田和徳先生がご逝去されました。85歳でした。

井田先生は、1973年の教授就任以来、一貫して内科学講座を担当し、42年余の長きにわたり教授の職にあって、学生の教育に従事され、2016年春には瑞宝中綬章(教育研究功労)を受章しました。

また、慢性胃炎の新しい内視鏡診断を確立させ、さらに胃がんの発生要因とされるヘリコバクター・ピロリ菌の胃内感染およびその除菌診断について内視鏡診断が高い精度で可能であることを世界で初めて報告するなど、消化器内視鏡学、消化器病学などの進歩、発展に大きく貢献されました。

井田先生は、2020年12月18日付で「正五位」に叙されました。



井田和徳先生

CARING**SPORTS**

入院患者さんにクリスマスプレゼント

12月24日、プリントTシャツの生産を行っている森プリント株式会社（羽島郡笠松町）、美容外科・形成外科を専門とするいちだクリニック（岐阜市清本町）から、朝日大学病院（岐阜市橋本町）の入院患者さんに、クリスマスプレゼントが贈られました。

同院で贈呈式があり、森プリント株式会社森典義社長から日下義章病院長に、膝掛けとエコバックのセット（200個）が贈されました。プレゼントには「お身体、大事になさってください」と書かれた手製のメッセージカードも添えられました。



贈られたプレゼント



日下義章病院長と森典義社長（右）

クリスマスリースをプレゼント！

12月4・8日、保健医療学部看護学科学生の有志により結成された「ふれあいサークル すまいる」が、朝日大学病院と巣南リハビリセンターへ、クリスマスリースをプレゼントしました。

クリスマスリースは、学生たちが落ち葉や木の実を加工して作成。新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない中で、病院や高齢者施設で大変な思いをされている職員の方々に、感謝の気持ちを伝えました。

学生代表と看護学科教員が直接、両施設へ届けに伺い、職員の方々に大変喜んでいただけました。



感謝とともにリースを渡す学生

卓球

卓球県選手権大会で優勝

男子シングルスでベスト4独占

令和2年度岐阜県卓球選手権大会が、OKBぎふ清流アリーナ（岐阜市薮田南）で行われ、本学が男子シングルスでベスト4を独占しました。

男子シングルス（決勝戦）では、馬渡元樹選手（法3年）と増本時祥選手（健2年）が対戦し、馬渡選手がストレート勝ちを決めて優勝（2連覇）しました。2位増本選手・3位刈念選手（経営2年）・3位相澤唯人選手（法2年）となりました。



激闘を繰り広げた卓球部員たち

野球

体育会野球部 新指導体制

1月1日、本学体育会硬式野球部新監督に西濃運輸株式会社野球部監督を務めた吉竹正氏が就任しました。

吉竹氏は、選手（内野手）として、社会人野球のトーナメント大会である都市対抗野球大会に12回出場（準優勝：1回、ベスト4：3回）。社会人野球日本選手権大会に5回出場（準優勝：1回）し、1994年全国社会人野球ベストナイン（二塁手）に選出されました。また、指導者として、都市対抗野球大会に4回出場、社会人野球日本選手権大会に2回出場を果しています。

吉竹新監督の下、野球部は全国制覇を目指して、より一層練習に励みます。

硬式野球部新監督 吉竹正氏
モットーは「明るく厳しくたくましく」